

# 令和2年度「救急の日」及び「救急医療週間」における消防庁の取組

## 救急企画室

### 1. はじめに

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に、昭和57年に定められ、以来、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間（日曜日から土曜日まで）を「救急医療週間」としています。（今年は、9月6日（日）から9月12日（土）まででした。）この期間には、全国各地において、消防庁、厚生労働省、都道府県、市町村、全国消防長会、公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本救急医学会、その他関係機関の協力により各種行事が開催されました。また、今年度の行事等の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実技や実演など対面・集合を伴うものについては、人数を制限する、延期を検討するなど、感染拡大の防止に十分留意した上での活動が行われました。

消防庁では、「令和2年度救急功労者表彰式」及び「電車の中吊り広告を活用した普及啓発」を行いました。

### 2. 令和2年度救急功労者表彰式

9月9日（水）、KKRホテル東京において、一般財団法人救急振興財団 山本保博会長及び全国消防長会 安藤俊雄会長に御臨席いただき、令和2年度救急功労者表彰式が挙行されました。

受賞者の皆様は、長年にわたり、救急隊員の教育・指導、救急患者の積極的な受入れ、応急手当の普及啓発推進などに御尽力され、各地域の救急医療や救急業務を支えてこられた方々です。

総務大臣表彰は、14名の方々と2団体、消防庁長官表彰は17名の方々が受賞され、高市早苗総務大臣及び横田真二消防庁長官から表彰状が授与されました。



総務大臣表彰の授与



消防庁長官表彰の授与



記念撮影

## 令和2年度救急功労者表彰受賞者

(五十音順・敬称略)

### 総務大臣表彰

#### ○個人表彰（14名）

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ・今井智彦 (長野県推薦)  | ・中川五男 (広島県推薦)  |
| ・内橋慶隆 (群馬県推薦)  | ・野呂純一 (三重県推薦)  |
| ・大高公成 (秋田県推薦)  | ・濱見原 (愛媛県推薦)   |
| ・小林健二 (栃木県推薦)  | ・本多英喜 (神奈川県推薦) |
| ・其田 (北海道推薦)    | ・溝端康光 (大阪府推薦)  |
| ・高橋玲比古 (兵庫県推薦) | ・茂泉善政 (宮城県推薦)  |
| ・田中茂 (静岡県推薦)   | ・吉原克則 (東京都推薦)  |

#### ○団体表彰（2団体）

- ・医療法人聖麗会 聖麗メモリアル病院 (茨城県推薦)
- ・埼玉医科大学病院 (埼玉県推薦)

### 消防庁長官表彰

#### ○個人表彰（17名）

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ・有川昌義 (山口県推薦)  | ・野口元 (秋田県推薦)   |
| ・五十嵐博充 (群馬県推薦) | ・服部克郎 (愛知県推薦)  |
| ・石井茂 (神奈川県推薦)  | ・林田純人 (大阪府推薦)  |
| ・宇都木哲男 (茨城県推薦) | ・左博之 (千葉県推薦)   |
| ・小山年秋 (宮城県推薦)  | ・まつ山孝生 (岐阜県推薦) |
| ・上岡健司 (栃木県推薦)  | ・村越正文 (埼玉県推薦)  |
| ・四島弘 (福岡県推薦)   | ・茂呂浩光 (東京都推薦)  |
| ・高屋伸 (沖縄県推薦)   | ・横山幸浩 (福島県推薦)  |
| ・長興寺一弘 (岩手県推薦) |                |

### 3. 電車の中吊り広告を活用した普及啓発

例年、消防庁では、「救急の日」及び「救急医療週間」にあわせて、イベント会場で催事を行ってきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、催事の実施はとりやめ、その代替として、電車の中吊り広告を活用した心肺蘇生法などの普及啓発を行うこととし、9月7日（月）から9月13日（日）にかけて、JR東日本湘南新宿ライン・上野東京ラインの8両1編成貸し切り形式で行いました。

中吊り広告のデザインは、一般財団法人救急振興財団が制作した、「救急の日」のポスターと同じ図柄を使用しました。ポスターのテーマは、「救命活動に間違いはない！見つけよう！自分にできること！」で、救命活動は、AEDでの対応だけでなく、救急車や人を呼びに行く、傷病者の荷物を整理するなど、そんな些細なでできることの積み重ねで行われること、老若男女を問わず、できることはたくさんあることを伝えました。



電車の中吊り広告



#### 4. おわりに

消防庁では、「救急の日」及び「救急医療週間」を通じて都道府県や市町村、関係機関などと連携し、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めていくとともに、救急業務のより一層の充実強化を図っていきたいと思います。